



夏季青森県高校野球大会第7日は23日、青森市デザインベースボールスタジアム(青森市営)で準々決勝2試合を行った。八学光星が工大一に7-5で勝利、弘前東は2-1で弘前工にサヨナラ勝ちした。24日は青森市営で準々決勝の残り2試合を行い、4強が出そろった。(金濱千優希、上村公悟)

きよの試合 13:10 00:00



高校野球速報

光星 薄氷4強



あわやサヨナラ 森木踏ん張る

【八学光星-工大一】9回工大一1死一、三塁、3点差まで追い上げられ、マウンドに集まる八学光星ナイン。デザイン

救援のエース、5失点猛省

【光星】三回、中澤の左翼線適時打や打席の中間適時打などで3点を先制。三、八回は大橋のソロ本塁打で追いつくなど押し切った。工大一は一回に猛反撃。馬形の三打を口火に連打を連続し、二塁の寄り、なお一死、二塁の好機で後続が倒れた。



主砲大橋ソロ2発 2度の腰骨折乗り越え

○：八学光星の4強入りに貢献したが、ソロ本塁打2発を放った主砲大橋匠吾、「朝の練習ではスイングの軌道が悪かったが、1本目の本塁打」で安心した」とすがすがしかった。三回の打席は甘く入ったフォークを一振りし、左翼に飛ばす。八回は前日の打撃練習で対策を練ってきた4番手の黒田将矢のスライタールを強振し、バックスクリーン横にたたき込んだ。「データ上、球種は分かっていた。走者がいなかったら一発を狙った」とし顔だった。昨夏、今春と2度、腰を骨折。新チームになってからまともに打撃練習できた期間は少なかつたが、できる範囲で最大限の努力を続けてきた。「今大会で、腐らずに練習した結果が出ている」と話し、準決勝での活躍を誓った。